

最後の「草刈り十字軍」での出会い

高木 勇

もう六年近く前になるが二〇一五年十月、四十六年間勤めた会社を定年退職した。退職後二カ月間、日本全国を放浪し人生の垢を落とし予定通りハローワークの紹介で、ウェブデザイン作成技術を五カ月間必死に学んだ。しかし、美的センス不足と高齢で再就職は難しかった。技術力と企業経験には自信があったので氣力を失い、二カ月間ゴロゴロと過ごした。家で妻と一日中顔を突き合わせていると息が詰まりそうで、妻の表情も暗くなった。

そんな時、手に取った新聞に「最後の草刈り十字軍」の記事を見つけ、宿付きで参加者を募っているとのことで、進路に迷っていたこともあり何かを得られると思い参加することにした。初めてのボランティア活動だった。

そして一六年八月一日〜九日の九日間、「草刈り十字軍」に参加した。参加して知ったことだが本活動は四十七年前（一九七四年）に造林地へのヘリコプターによる除草剤の空中散布に反対するため、当時富山県立技術短大（現富山県立大）の教授だった足立原さんらが「反対するなら対案を」と嫌で下草を刈ったのが始まり。しかし隊員の高齢化で、本年度活動を「修了（足立原さんの意向で終了ではなくこの表現に）」させることになった、とのこと。

活動は富山県内の四地区（富山、黒部、射水、小矢部）で行われ私は小矢部隊に参加させて頂くことに。申し込み書類に「初参加で体力に自信がないので楽な作業場所をお願いします」と書いたからだろうか。初日、富山市内の公園で午後の強い太陽光線を浴びて、入山式が一時間にわたって実施され最初の洗礼を

受けた。私は「高齢者が多いのに何で座席に背を向けて立ってやるの……」とカルチャーショック、記者席からも「こんな暑い中でやらなくても」の声が。入山式終了後、戸惑いながらも指示に従い小矢部市の活動拠点に移動した。

宿舎はログハウス風で別荘気分。自己紹介、作業内容、安全に関する説明があり買い出し後に隊長のタッキーさん手製の豪華料理で懇親会。新ちゃん（会計）の九州一周サイクリング、最年長七十三歳のヤベちゃんからは過去の草刈り十字軍の話聞き胸は踊った。

さて翌日から活動開始。食事当番は四時起床、五時隊員起床、六時朝食、七時作業開始で午前は四時間、午後三時間の造林地の草刈りや竹林整備という生活が始まった。造林地では強い太陽光と蚊、蜂に悩まされ、長さ一メートル程度の鎌で萱、雑木、雑草を渾身の力で打ち払い、竹林では手ノコで竹を切り倒す。

鎌（カマキリ）さんは小柄だが、竹林を飛び回り小気味よく切り倒す。ヤッシーさんはJICA仕込みで自ら判断しテキパキと必要な仕事をこなす。垣さんは機械類を器用に使いこなし、地域活性化に熱い思いがある。シモツジさんは元記者で一歳前の娘を連れての参加。切れの良い発言が魅力で娘を背負って草刈りに参加する行動派。山の職人宮ちゃんの支援も受けて竹林整備は格段に進み中国漢詩の世界を作った。

そして二日後、噂のミキティとヤッちゃんという二人の若い女性が参加し華やかで騒がしくなった。夜の宴会は大いに盛り上がる。本心を言えば電動草刈り機で行えば効率的ではないが手でする草を刈ることで汗をかき、環境を守る大切さを身をもって学び、交流することで前に

進む力を得たように……。少しだが先に明かりを見つけたように思った。特に、女性陣の自信に満ちた生き方が眩しかった。

なお草刈り作業は肉体的には厳しいが、汗と共に心が軽くなり身体が目に見えて躍動。ミキテイの「小矢部隊ファイト」の声に「ファイト」と返し、それが連鎖し隊員の心は一つになって行く。彼女たちが来てからやたらと掛け声が多くなった。

私は最初、気後れと声を出すと体力を消耗すると躊躇していたが、ヤツちゃんから「高木さん声を出すのは、互いに安全確認するためなんです。必ず声を出して下さい」と諭され反省した。「ヤツちゃんファイト」と声を掛けると「高木ファイト」と返り、「ファイト」の声が山に連鎖する様は説明抜きで素直に嬉しい。快い気持ちに酔っていると「小矢部隊あと五分」の声に更に力を得て、「本日、作業終了」の声に笑顔になった。

さらに懇談会で足立原先生の十字軍への思いを聞き、先生に私の悩みを聞いていただき、先生が作詞された詩にメロディーを付けて一緒に歌うと、私なりに草刈り十字軍の活動目的の思いを理解した気持ちになった。

ところで今年の小矢部隊は総勢男女十名、年齢は二十四〜七十三歳、出身地は鳥取県から愛知県、職業も地域活動家、飲食業、指圧師、元教員、林業関係者、農業、定年退職者、会社員等様々。地域住民の訪問、差し入れも多く活動が地元で根付いていることが理解出来た。

毎日、作業終了後の夕食時の会話は盛り上がり自分の強み弱さを知り、今後の生き方を模索する「教育の場」となった。私には「高木さんは傷つきたくないの

で、自分を安全な場所に置いて発言、行動している」との言葉が心に刺さった。自分の心を読まれていると思ひ恥ずかしかつたが、一緒に汗を流して作業した仲間の言葉は素直に聞けた。それでも私が作ったホームページをヤツちゃん「難しくて見る気がしない」とコメントし、言い返したい思ひはあつたがこらえ、その様子を見たミキティが「おじさん気持ち若いネ」とチャチャを入れた。

また隊員の関心事は環境・林業行政に一石を投じた「草刈り十字軍」の今後であり、熱い議論があり小矢部隊では若手を前面に出しシニアが支援し、来年も活動できる手掛かりらしいものが出来た。〃継続は力なり 一つの事を長く続けてこそ 人生は充実し 人間が大きく成長するものである〃を實踐して欲しい。冷たいようだが、私はちよつと距離を取り関心を持って見守り三年後の姿を見たい、と思つた。

そして、一週間のここでの活動と出会いが私の背中を押した。帰宅後、さまざまシルバー人材センターに登録し職種を選ばず仕事をすることにした。決心を試すように駅前でのティッシュ配りの単発業務が入つた。照れくさかつたが、汗をかいて働くのは心地良かつた。

すぐに駅前駐輪場管理の仕事が決まつた。相手は親切な客、高圧的な客、不機嫌な客と様々。自分を鏡で見ているようで勉強になる。思い通りいかないことも多いが、先輩が優しく指導してくれる。私にはこの優しさがなかつたと思ひ付く。前職の私からは想像できない思ひだが、草刈り十字軍での活動で出会いの楽しさ汗を流して働くこと、体を動かすことの楽しさを教えられたことが良い方向に働いているのかもしれないと思つた。このように自分が思へた時、未熟な私を指導下さつた足立原先生はじめ事務局、草刈り十字軍関係者に感謝し

た。

この時から二年が経過し、仕事にも慣れたので休暇を取って前年にミキティが立ち上げた新・草刈り十字軍に参加することにした。二〇一八年八月二十二日、富山県小矢部市戸久にある活動拠点に向かう。二泊三日の活動と聞き心は軽く、隊員との再会が楽しみだった。県内外の常連のほか、新たに愛知県豊橋市の高校生男女三人が初参加し活動が、力強く息づいていると思った。

再会を喜び、翌日午前六時すぎから総勢十四人で近くの雑木林で作業を開始した。暑さと闘いながら、背丈ほどの草を刈り、のこぎりで竹を切り倒す。

さて恒例の懇親会では、高校生達が「暑いし、きついし、虫もいるけど、心の強さ、忍耐力を身につけたい」、「つらいけれど、きれいに刈れると気持ちがいい」、「汗の量と共に自信が湧いてくる」と笑顔を見せた。タッキーさんは「特別に教えなくても、活動の中で学んでもらえるはず。仲間と汗を流した後の達成感は格別」と生徒たちを見守る。八十三歳最高齢の参加者は「最近の外に出て自然に接することがあまりないので、年に一度は戻ってきたくなる。体が動く限りは参加したい」と話し拍手喝采を浴びた。最後にミキティ隊長は「雑草と格闘した経験や出会いを財産にして、自分と同じように何かをつかんでほしい」と締めた。

私は参加者の意見を聞きながら活動の精神が継続されていることを嬉しく思い、今度は自分が行動する番だと思った。そして『今の仕事を後一年続け、再度、デジタルデザインに挑戦する』と自分に誓い恥ずかしいのでミキティ隊長にだけ伝えた。

現在、この時の誓いを実行し大きな賞は獲得できていないが、現役としてデザイン、創作活動に励んでいる。この二年間はコロナ禍で新・十字軍活動は休止状態だが来年は是非参加して力と思いを補充したいと考えている。